

大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町 京都大学教育学部図書室 (竹村心気付)

TEL 075-753-3013

《立命館大学図書館》

利用者ニーズにそった

新・図書館ガイダンス

専門・非専門とを問わず、大学でのあらゆる学習・研究活動を主体的に進めていくうえで図書館の積極的利用は必要不可欠です。図書館では利用者が図書館の利用方法を習得することにより、学習・研究の内容を充実・発展させることを目的として図書館ガイダンスを実施しています。これまでは新入生を対象とした「新入生ガイダンス」を主として行ってきましたが、最近の図書館利用の高まりや図書館の新しい利用者サービスの展開を受けて、本年度からは新たに3回生以上のゼミを対象とした「高回生ゼミガイダンス」と、目的に応じた各種ガイダンスを開始、恒常的かつ体系的なガイダンスとして実施しています。

高回生ゼミガイダンスは、3・4回生の高回生ゼミを対象とし、年度はじめに個々のゼミからの申し込みを受けて実施します。今年度については、ほとんどの学部から合計59ゼミの申し込みがあり（内訳は「90年度高回生ゼミガイダンス申込状況」を参照）、これまでに約800名の学生がガイダンスに参加しています。

実施にあたっては事前にゼミの担当教員と打ち合わせを行い、個々のゼミの演習テーマや研究課題に即したガイダンス内容を決定します。これまで実施したガイダンスでは、ゼミ発表やレポート・卒業論文の作成に必要な文献資料（図書・雑誌・雑誌記事論文など）を、効率的かつ体系的に探すための基本的な目録や索引類の利用方法を柱に、ゼミの研究課題に関連した参考資料や雑誌・新聞・判例・統計資料などの利用について説明を行いました。あわせて図書館以

外の学内外の研究機関や図書館の資料が利用できる相互利用サービスや、コンピュータを使って図書や新聞記事を検索する情報検索サービスなど、図書館の行っている様々な情報提供サービスについても案内しています。また今年度はRUNNERS：蔵書検索システムが稼動したこともあり、ゼミからの希望に応じてRUNNERSの検索の実習も行いました。

演習授業の一環ということもあってか、ガイダンスへの参加も総じて積極的で、熱心にメモをとったり、質問を出したりする学生も多く見られます。このゼミガイダンスを開始して以降、ガイダンスで紹介した目録や索引類の利用が顕著に増えており、レファレンス・カウンターでの問い合わせもガイダンスの内容を踏まえたものが多くみられるなど、目に見えるかたちでガイダンスの成果が現れています。また文献や資料の検索方法や利用を体系的に習熟できる場として、担当教員からも好評を得ています。

また、図書館では目的に応じたガイダンスとして、「入門編ガイダンス」と「応用編ガイダンス」をそれぞれ毎月1回実施しています。「入門編ガイダンス」は、図書館の基本的な利用方法について、ビデオ上映や館内見学を交えながらガイダンスを行っています。「応用編ガイダンス」では、その時々に応じた内容を設定して実施しています。これまでに、RUNNERS：蔵書検索システムの利用・卒論作成に向けた文献収集の方法・図書館の視聴覚（オーディオ・ビデオ）教材を利用した英会話学習の方法といったテーマでガイダンスを実施しました。「入門編・応用編ガイダンス」には、すでに100名を超す利用者が参加しています。

これら「高回生ゼミガイダンス」や「入門編・応用編ガイダンス」は図書館にとっても初めてのころみであり、ゼミでの研究活動の実情や利用者ニーズに触れることができるという意味で非常に有意義なものです。図書館としては、これまで行ってきたガイダンスの成果を踏まえ、来年度以降もさらに充実した内容でガイダンスを実施していこうと考えており、多くの利用者が自らの図書館利用や学習・研究に図書館ガイダンスを積極的に活用されるよう期待しています。

(※)この原稿は、「立命館大学学園通信」第68号(1990年12月10日)に掲載されたものです。

駆け出しライブラリアンのぶろーくんエッセイ(1) なんと、れんさいよてい なんだそうです。

べんし 図 「読書」嫌いからのあいさつがわりの過激発言 図ちやうし!

京都橋女子大学 図書館

小川 晋司

学生時代、僕は図書館が好きではなかった。だいたい「読書」というものが好きではなかった。それは今でも変わらない。だが本を読むことは嫌いではない。本を読むことは決して「読書」とは限らないと思っている。僕は「読書」はしないが、本を読んだり、眺めたり、味わったり、ときには酒の肴にしたり・・・する。

だから、本を「読書」することを強要するかのごとき雰囲気をもった「図書館」を好きになれなかった。それはまるで日本のクラシック音楽のコンサートが教養による「理解」をキョーヨするように――そこでは観客は綺麗な身なりで襟を正し、お行儀よく音楽を拝聴し、終わったら「ブラボー！」と拍手を送り、帰りの電車のなかでは自分がどれだけ西洋の音楽をよく理解しているか友人と語るのが常であるように――図書館は教養としての「読書」をキョーヨする雰囲気をもっていた。

音楽たちが「理解されたい」とばかりは決して思っていないように、本たちだって「読書されたい」とばかりは思っていないにちがいないのだ。

学生時代、僕は図書館が好きではなかった。だから今の学生には図書館を好きになってもらいたい。そのためには、まず図書館が変わらなければならないと思う。学生に「読書」を強要しながら、一方では「最近の学生は本を読まなくなった・・・」などと責任を利用者になすりつけている場合ではない。そういうブック・フェチシストは、「司書」ではなく「仕書」と名前をお変えになったほうがいいのでは・・・などと司書資格のない僕は「司書」の諸先生方の立ち居振る舞いにやっかみも交えてひそかに反発したりしている。

文句ばかり云っていても何もはじまらない。どうしたらよいだろうか？

コンサートを「共感」を媒体とした作曲者と演奏者と聴衆の三位一体の「音楽の創造」の場とすれば、図書館は「交感」を媒体とした著者と図書館員と利用者の三位一体の「知恵の創造」の場と考えてみることはできないだろうか。

どちらも聴衆や利用者を単なる「出席者」としてではなく、主体的な「参加者」として「創造」にかかわってくれるような「作り手」に変えることが、演奏者・図書館員の腕の見せ所であろう。

僕自身は、「教養の強要」(か好の強要)に対するものとして「創造の演出」(中身)をイメージしている。学生たちにとって図書館という劇場は演出家としてのライブラリアンの姿勢と手法によって随分違った雰囲気のものに見えるにちがいないのだ。

学生時代、僕は図書館が好きではなかった。だからそう思うのだ・・・ろうか？

神奈川で全国研究集会開催

常任委員会が関東に移行して最初の全国研究集会がさる3月9日(土)から10日(日)にかけて60名以上の多数の参加のもと神奈川で開催された。

最初に予定されていた寺崎昌男氏の記念講演は、交通渋滞のため予定より2時間遅れるというハプニングではらはらさせられたが、その間は神奈川支部の大学審学習の報告と松井委員長の見解表明でつなぎ、ことなきをえた。但し神奈川の報告は問題点の解明がなくものたりなかった。寺崎氏の大学審に関する講演は分かりやすく面白く1時間があったという間であった。その後は懇親会。いつもながら大図研の会合はすばらしいと思わせる和気あいあいのムード。翌日は、政策委員会の政策骨子、研究委員会の研究活動の進め方についての報告提案であったが、残念ながら時間不足でほとんど討論らしいことはできなかった。もうひとつ残念だったのは、懇親会の後急遽二次会が設定されたが皆に充分徹底しなかったことである。(竹本)

第5回支部委員会記録

日・時 1991年3月5日(火) 18時30分より 場所・京都大学教育学部

出席・堤, 竹本, 竹村, 大館, 橋本, 松原, 西野, 西川(オブザーバー)

欠席・篠原, 小林

1. 報告 (1) 情勢—文部省の公企業論, ポスト学情システム, ILLシステム, 学内LAN を使った電子ファイルシステムについて (2) 新春5 支部合同例会分担金について (3) 「年報京都の大学図書館」について

2. 議題 (1) 大図研大学の総括と今後の継続研修の企画について—外書講読 毎月1回〔講師 篠原俊夫〕参加9名 ・科学史 毎月1回〔講師 富田克敏〕参加11名 ・AACR2 1990.8.25—26〔講師 大城善盛〕参加10名 ・専門資料論 1990.10.7〔講師 武者小路信和〕参加14名 ・日本近代史資料論 1990.11.10—11〔講師 福井純子〕参加5名 ・理工学文献案内 1990.12.8—9〔講師 林門典〕参加10名 ・江戸文学概論 1991.1.19—20〔講師 山本英樹〕参加12名 ・未実施科目—参考調査概論, 朝鮮語入門 (2) 全国研究集会について (3) 支部報について